

花物語通信

NO.32

10月のトピックス

★年末までの3回シリーズ

《シリーズ①》縁起のよい小物たち

(フクロウ・招き猫)

★予告「花とワインのタベ(仮称)」

のお知らせ

★花物語のニューフェイス

★モスクワ花紀行

2016年10月号

《シリーズ①》
縁起のよい小物たち
招き猫・フクロウ

年末までの3回にわたりお届けする、
日本の縁起物についてのコーナーで
す。今回は《招き猫》と《フクロウ》。

昔より日本でなじみ深き《招き猫》、

古くは猫が農作物や蚕を

食べるネズミを駆除する

ことから、養蚕の縁起物

だったそうです。ちなみ

に「右手」をあげている猫は金運を招き、

「左手」をあげている猫は人(客)を招く

と言われ、そのスタイルや色によつて

もいろいろの意味があるようです。

一方、西洋ではギリシャ神話で学問

の神様、メキシコでは富の

象徴として親しまれている

《フクロウ》。苦勞知らず(不

苦勞)、不老長寿(不老)、幸

福に年を取る(福老)など、縁起のよい

語呂合わせがたくさんあります。また

《フクロウ》は首がぐるりと回り、暗闇

でも目がよく効くことから商売繁盛の

縁起物としても人気があります。

普段、縁起物：と言われていてもな

かなかそのルーツを知らずにいました

が、これを機に自分たちの身の回りに

飾ったりして活用してみたいかが

でしょうか。当店でも年末に先駆け

て、縁起物コーナーを近日開設の予定

です。次回は植物の縁起物のご紹介

です。お楽しみに。



【予告】お花とワインに囲まれた
交流会のお知らせ

日頃、お客様から「花物語さんのお花
に囲まれた素敵な空間でワインパー
ティーでも開催
されたら、ぜひ出かけてみたい！」と
いったご要望
をお聞きして、とうとう実現の運び
となりました。
花物語スペシャル企画第1弾！

『花とワインのタベ(仮称)』

皆様のご来店を心よりお待ちしております。

お申し込みはお早めに。

○日時 11月25日(金) 午後7時より

○場所 花物語店内にて

○参加費 3,500円(税込) ※ドリンク・軽食付

○お申込み・お問い合わせ先

花物語 TEL 0269-1231-2380

E-mail hanaippai1187@gmail.com

※定員となり次第締め切りとさせていただきます。

花物語のニューフェイス

はじめまして、小池美恵よしえです。

私達は花に癒されたり、時には

パワーをもらったりしています。

それは限られた時間の中で、精一

杯咲き続けているからかも知れませんね。

花には「花言葉」や贈る本数で伝える想いがあつ

たり、綺麗なだけではなくとてもロマンチックで

す。こんな素敵な花の仕事に就けたことを幸せに

思う毎日です。

花についてこれから勉強することばかりです

が、皆様に笑顔になっていただけるように努力し

てまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



ギンギン照らす太陽の光に少々うんざりしていた夏も終わり、いつのまにか長雨が続く肌寒い季節になりました。庭で元気に咲いていた夏の花たちも少しずつ開花が減り、秋咲の花々に選手交代。
春の桜の開花が早かった今年は、実りの時期も早めと聞きます。もう少し経つと花屋の店内は冬の訪れを感じる鮮やかな花々が出そろおう季節。
空が高くなった秋晴れの日は、いつもより早起きをして紅葉狩りに出かけませんか？



モスクワ

花紀行

まだ暑さの残る9月初旬、ロシアはモスクワにおいて、チャイコフスキー音楽院創立150周年記念のお祝いとして全国各地から邦楽の演奏者が招聘され、『日本のこころ』と題した祝賀コンサートが開催されました。私は光栄にもその邦楽の演奏に合わせ、正に『お祝いに花を添える』と題し、フラワーパフォーマンスをさせていただく機会に恵まれ、約6日間にわたり異国の地に出かけてまいりました。



まず眼下に飛び込んできたのは、おとぎの国のような建築物。それは主に寺院であったり音楽ホールや国営の建物でした。街

のあちらこちらに花々が飾られ、冬季間にマイナス30度にもなる国とは思えないほどの華やかさが印象的でした。

現地でのお花の調達は、ロシアにて生花を学び、普及活動

をされている女性と通訳の人とで、モスクワ市街から1時間ほど離れた花市場に出かけ、多品種の切花を選定しました。



日本の市場と大きく異なるのは、大きなプレハブの建物一帯が巨大冷蔵庫となっており、ダンボールではなく水入りのバケツに花の色や種類ごとに並べられ、そこへスーパーマーケットのように台車で花をピックアップ、会計の際には市場の人がまとめて箱詰めをして送り出してくれるというシステム。日本の価格の概ね半額程度で流通していることを知り、海外の花文化が進んでいる理由が判ったような気がしました。

時間の合間に訪ねた、赤の広場やクレムリン、聖ワシリイ寺院などはとても歴史が深く、異国情緒あふれる素晴らしいものでした。

勿論、チャイコフスキー音楽院ラフマニノフホールにて開催された演奏会は、無事大成功を収め、ご来場のお客様には興奮して握手を求められたり、演奏の合間に花の前で写真を撮られる多くの皆様の笑顔に、心地よい疲労感を感じ、同時に「花」と「音楽」に国境はない！と感じたひと時でした。

演奏会終了後は、日本大使館主催の晩餐会に招待され、一行22名の楽しい交流ができ、とても良い経験となりました。

ロシアでの数々の写真は当店にございます。お立ち寄りの際にはぜひご覧くださいませ。



り、海外の花文化が進んでいる理由が判ったような気がしました。



私事で恐縮ではございますが、おかげさまで先月9月25日に、先代である母の七回忌を無事終えることができました。花物語通信をご覧のお客様の中には、「もうそんなに経ったの？」と驚かれる方もおいででしょうが、何より私自身が、時の流れの速さを一番感じているところです。

法要を済ませた後、住職からのお言葉に、「(仏様に)何を想い、手を合わせていますか？」とのお話の中で、ある時は「安らかに眠ってください」と想い、またある時は「ずっと(私達を見守っていてください)」と想う。眠っていてほしいのか、見守ってほしいのか、相反することを想ってしまう。何だか違和感を持ちませんか？ 日常も同じことは言えないでしょうか。本来きちんと思っていることを相手に伝えられているでしょうか。

そんな問いにふと我に返り、思い当たる節が：当たり前の事だから、と大切な一言をつい忘れがちなの日々。当たり前に毎日はやってくるわけではない。そんなことを感じた晴れ渡る昼下がりの法要でした。来月号もお楽しみに。

編集後記

恒例!

お楽しみクイズ

【前回8月号の答え】

- 1 問目 ② トリック オア トリート
- 2 問目 ③ モクセイ科

今回のクイズは紙面の都合によりお休みいたします。